

基本計画別まとめシート

26年度	基本目標1	「みんなで学び合い、話し合えるまち」
	基本計画1-1	福祉人材の育成支援

1 基本計画の趣旨

何をどの様にしたいか	地域福祉を支える人材育成
------------	--------------

2 計画の関連事業

関連事業		前年度の評価	今年度の評価	予算の方向
1	地域福祉の意識を醸成する、継続的な学びの場の提供	A		
2	ライフステージに応じた福祉学習の推進	A		
3	地域福祉専門人材の育成、拡充	A		
4	福祉専門人材の育成・確保のための組織創設	A		

3 計画の評価

計画全体に対するニーズの変化	(社会環境の変化、制度の改正、市民の意見、緊急性等) 「地域社会を基本とするまちづくりプロジェクト」(町田市基本計画『まちだ未来づくりプラン』)に基づく地区協議会の設置。地域福祉コーディネーター養成講座については、介護保険制度の改正や市の地区協議会等との関係が未整理のままのため、実施せず。
今年度の実施状況	<ul style="list-style-type: none"> <li>出張講演会(全21回)は、「相続と遺言」(2回)以外は防災講演を開催した。</li> <li>福祉施設職員研修会は実践的な内容を設定し、年4回開催。</li> <li>福祉教育資料(DVD)は市内小中学校に配布した。</li> <li>ヤキイモプロジェクトは市内5ヶ所で、町内会自治会やNPO団体と協働で実施した。</li> </ul>
課題等	<ul style="list-style-type: none"> <li>ヤキイモプロジェクトについて参加者増に向けたPR方法の検討、地域・協力団体の掘り起こし。</li> <li>出張講演会に参加する団体は増えたが、防災講演に集中した。</li> <li>福祉施設職員研修会の参加人数の減少。</li> <li>福祉専門人材の育成・確保。</li> </ul>

4 次年度以降の方向性

計画の方向性や改善点等	<ul style="list-style-type: none"> <li>福祉体験学習資料(DVD)は、引き続き効果測定を行いながら授業で活用いただけるよう働きかけていく。</li> <li>ヤキイモプロジェクトについて、地域・団体において継続して実施され、地域のイベントとして定着していくよう働きかける。</li> <li>26年度参加者アンケートに基づき、市民ニーズに沿った内容にして講座に取り組む。</li> <li>福祉専門人材の育成・確保については、引き続き施設職員研修会において、高齢・障がい・児童のどの分野にも共通するテーマを設定し実施する。</li> <li>福祉のしごと相談会(地域密着面接会)は、引き続き市や他団体に協力いただき、市内事業所の福祉専門人材の確保に貢献する。</li> </ul>
-------------	---

【実績の評価】A 適切・計画通り B 概ね適切・概ね計画通り C 改善の余地がある D 改善する点が多い

【予算】↑大幅に増加(50%以上) ↗やや増加(10~50%未満) →現状維持(±10%) ↘減少(-10%以上)

基本計画別まとめシート

26年度	基本目標1	「みんなで学び合い、話し合えるまち」
	基本計画1-2	福祉情報の共有化の推進

1 基本計画の趣旨

何をどの様にしたいか	地域福祉情報が必要な時に適切に入手できる
------------	----------------------

2 計画の関連事業

関連事業		前年度の評価	今年度の評価	予算の方向
1	福祉情報が必要な人に適切に届き活用できる、収集・発信、環境の整備	A		
2	小地域内の身近な福祉情報の発信、共有化の推進	A		

3 計画の評価

計画全体に対するニーズの変化	(社会環境の変化、制度の改正、市民の意見、緊急性等) 特記事項無し
今年度の実施状況	<ul style="list-style-type: none"> <li>・情報提供に関するチェック項目に基づき、社協だよりやホームページ等の改善を図った。社協だよりでは、配布先を増やし、各所に適正部数を設置した。ホームページでは、トップページを中心に改善し、また助成金や後援事業の情報を新たに提供した。</li> <li>・広報に関する第三者評価として、モニターによるアンケート調査を行い、広報部会へ報告することで紙面づくりに役立てた。</li> <li>・ホームページでの情報提供は、ボランティア登録者やふれあいサロンの紹介について整理し、見やすいホームページづくりを行った。</li> </ul>
課題等	・より迅速に対応できる情報媒体の検討や仕組みづくり。

4 次年度以降の方向性

計画の方向性や改善点等	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ホームページは更なる改善を図り、見やすく魅力的な情報を提供していく。</li> <li>・広報について、効果測定を実施し、より効果的な広報について検討を行う。</li> <li>・小地域内における地域福祉活動団体の情報収集と提供は引き続きボランティアマップに関連付けて進める。</li> <li>・福祉施設や地域活動団体・市民活動団体等からイベントや研修会など、ホームページへの掲載記事を募集するしくみをつくり、情報の収集と提供を検討、実施する。</li> </ul>
-------------	--

【実績の評価】A 適切・計画通り B 概ね適切・概ね計画通り C 改善の余地がある D 改善する点が多い

【予算】↑大幅に増加(50%以上) ↗やや増加(10~50%未満) →現状維持(±10%) ↘減少(-10%以上)

基本計画別まとめシート

26年度	基本目標2	「みんなで協力し、創っていくまち」
	基本計画2-1	地区社協を各地で設置

1 基本計画の趣旨

何をどの様にしたいか	地域課題のいくつかが、地域住民の力で解決されている
------------	---------------------------

2 計画の関連事業

関連事業		前年度の評価	今年度の評価	予算の方向
1	小地域住民福祉活動の取り組みを推進し、地域の实情に合わせた地区社協の設置	A		

3 計画の評価

計画全体に対するニーズの変化	(社会環境の変化、制度の改正、市民の意見、緊急性等) 町田市福祉総務課が担当する『地域福祉計画』における「地域福祉健康連絡会」は、市民協働推進課が進める「地域社会を基本とするまちづくりプロジェクト」(町田市基本計画『まちだ未来づくりプラン』)に統合された。プロジェクトの計画は、市内10地区に地区協議会を設置し、地域住民自らが地域の課題解決に取り組むためのしくみをつくることであり、社協が推進する地区社協の設置と目的を同じくしている。 すでに市内に2ヶ所設置、年度内に3ヶ所設立を予定している。
今年度の実施状況	・出張講演会の講演内容に「支えあうまちづくり」として、地区社協とふれあいサロンの説明を入れたが申し込みがなかった。 ・「南町田福祉ネットワーク」において、5月に地区社協設立総会を実施した。 ・各地区協議会の意見交換会や説明会、準備会へ地区の担当職員が出席するとともに、協議会のメンバーとして参加した。
課題等	・地区社協と地区協議会との整理。 ・市の「未来づくりプラン」と「地域福祉計画」「地域福祉活動計画」それぞれの計画との整合性と連携のあり方

4 次年度以降の方向性

計画の方向性や改善点等	・出張講演会の目的を見直し、社会の状況や市民ニーズを考慮し、内容を検討する。 ・玉川学園地区社協及び南町田福祉ネットワーク(地区社協)への運営支援を継続して行っていく。 ・町田市が推進する地区協議会に参加し、市民協働推進課・福祉総務課と今後も連携しながら市と整合性のある小地域福祉活動支援を行っていく。
-------------	---

【実績の評価】A 適切・計画通り B 概ね適切・概ね計画通り C 改善の余地がある D 改善する点が多い

【予算】↑大幅に増加(50%以上) ↗やや増加(10~50%未満) →現状維持(±10%) ↘減少(-10%以上)

基本計画別まとめシート

26年度	基本目標2	「みんなで協力し、創っていくまち」
	基本計画2-2	小地域の支え合い活動の立ち上げ支援

1 基本計画の趣旨

何をどの様にしたいか	地域福祉情報が必要な時に適切に入手できる
------------	----------------------

2 計画の関連事業

関連事業		前年度の評価	今年度の評価	予算の方向
1	小地域における市民の支え合い活動等の情報の把握と提供	B		
2	地域の福祉活動団体の支援・育成	A		
3	小地域でのボランティア活動につながる講座開催	A		

3 計画の評価

計画全体に対するニーズの変化	(社会環境の変化、制度の改正、市民の意見、緊急性等) 特記事項無し
今年度の実施状況	<ul style="list-style-type: none"> <li>・小地域の支え合い活動の講座として、出張講演会を21回開催予定。19回実施済み。</li> <li>・歳末たすけあい配分について、実施したアンケートについて内容の精査を行った。</li> <li>・ボランティア団体交流会を開催予定(3月)。</li> <li>・地域版入門講座を2地区(南・町田)で、新たな市民活動団体等と協働で開催した。</li> <li>・3地区(忠生・鶴川・塚)のボランティアマップを作成・配布した。</li> </ul>
課題等	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ボランティアマップについて、作成後の更新、さらなる情報の充実について検討が必要。</li> <li>・地域のつながりをテーマとした市民ニーズに沿った出張講演会の実施。</li> <li>・地域の福祉活動団体の活動状況や取り組みに関するPRの場が少ない。</li> </ul>

4 次年度以降の方向性

計画の方向性や改善点等	<ul style="list-style-type: none"> <li>・出張講演会は、地域のつながりや課題について、地域で考えるきっかけづくりができるような内容を検討する。</li> <li>・地域の福祉活動団体のPR方法を検討する。</li> <li>・ボランティア入門講座については、夏のボランティアスクールと併せて対象者やプログラムを変更し、子どもと保護者等潜在的な層へボランティア活動に参加するきっかけづくりや意識の醸成を図る</li> <li>・ボランティアマップを町田地区・南地区について作成。</li> </ul>
-------------	--

【実績の評価】A 適切・計画通り B 概ね適切・概ね計画通り C 改善の余地がある D 改善する点が多い

【予算】↑大幅に増加(50%以上) ↗やや増加(10~50%未満) →現状維持(±10%) ↘減少(-10%以上)

基本計画別まとめシート

26年度	基本目標3	「みんなで支え合い、安心のあるまち」
	基本計画3-1	地域生活を支援する取り組みの推進

1 基本計画の趣旨

何をどの様にしたいか	異世代の人々が支え合いながら地域で暮らしている
------------	-------------------------

2 計画の関連事業

関連事業		前年度の評価	今年度の評価	予算の方向
1	成年後見制度等の活用により、判断能力の不十分な方々等の権利を擁護し、安心した地域生活が過ごせるような取り組みの推進	A		
2	誰もが自由に利用できる、地域の居場所づくり	A		
3	地域の子どもの成長を支援する取り組みの推進	A		
4	社協にしかできない、ニーズの高い公的制度外サービス提供の仕組みづくり	A		

3 計画の評価

計画全体に対するニーズの変化	(社会環境の変化、制度の改正、市民の意見、緊急性等) ・平成27年4月から子ども子育て支援新制度が始まる。学童保育運営についての動向に留意していく必要がある。 ・障害者総合支援法の放課後デイサービス事業所の増加などにより、ニーズを抱えた利用者のサービス利用の選択肢が増えてきている。
今年度の実施状況	・地域生活支援担当は、市民後見人育成委員会を設置し、育成研修開始に向けてより具体的な内容のまとめを行った。10月には育成研修開始に向けたオリエンテーションを開催し、市民後見人に関心のある130名に対し事業の説明を実施した。また、新たな市民後見人の受任に向けた検討会を2回開催し、事案受任に向けた検討を行い、併せて法人後見監督としての受任に向け申し立てを行った。 ・ふれあいサロンは昨年に比べ、3サロン(うち子育てサロンは1か所)が新規で登録し、11サロン(うち子育てサロンは5か所)が解除。 ・サロン活動予定表を民協定例会で配布し、市民への情報提供に努めた。また、東日本大震災の避難世帯(67世帯)に配布し、地域交流へのきっかけを提供した。 ・学童保育事業担当は、新たにいきいきポイント、高校生インターンシップ受け入れを実施するなど、昨年度に引き続き、地域との関わりを増やすことに力を入れた。 ・仲間の家では、複数の関係機関を訪問し、お互いの事業について情報交換を行った。また、利用者11名、介助員2名の新規登録があり、介助員の知識、技術の研鑽のための介助員研修の機会を設けた。 ・公的制度外サービス提供の仕組み検討については、社協事業を公的制度によるサービス、公的制度外サービスに振り分け、整理し、具体的な取り組み案の検討を行った。

【実績の評価】A 適切・計画通り B 概ね適切・概ね計画通り C 改善の余地がある D 改善する点が多い

【予算】↑大幅に増加(50%以上) ↗やや増加(10~50%未満) →現状維持(±10%) ↘減少(-10%以上)

基本計画別まとめシート

<p>課題等</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・育成した市民後見人が受任するに適した事案が、定期的に提案されてくるような仕組み作りや関係機関への周知を進める。</li> <li>・ふれあいサロンスタッフの高齢化や独自開催、子育てサロンについては、活動場所の問題や子供の成長に伴う参加者の減少等の理由から、サロン指定を解除する所が増えているが、今年度については新規のサロンが少ない、</li> <li>・学童保育事業担当では、引き続き学校を始めとする関連機関との連携を図りながら、地域との関わりを意識した取り組みを実施していく。また、子育て支援事業を全クラブで実施できるように取り組んでいく。</li> <li>・仲間の家は、事業を取りまく関係機関の現状や、求められている内容を把握し、事業のあり方をさらに確認していく必要がある。</li> <li>・公的制度外サービス提供の仕組み検討については、具体的な取り組みに向けた組織としての方向性を明確にする必要がある</li> </ul>
------------	---

4 次年度以降の方向性

<p>計画の方向性や改善点等</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・市民後見人育成事業の引き続きの実施と、市民後見人が受任した後の支援の一つである相談体制の検討を行う。</li> <li>・市民後見人に対する実費保証、報酬、保険の有り方について整理をすすめる。</li> <li>・法人後見監督として、後見人に対し適切な支援を行う。</li> <li>・地区担当がエリアのサロンの現状を把握しながら、参加者増への取り組みや新たなサロン開拓に努める。設置数増に向け、サロン立ち上げ説明会を実施する。</li> <li>・仲間の家では、関係機関との連携を継続して行い、求められる事業のあり方を確認したうえでサービス内容の検討を行う。</li> <li>・公的制度外サービス提供の仕組み検討については、具体的な取り組み案を整理し、実施内容・方法の検討、準備を行う。</li> </ul>
--------------------	--

【実績の評価】A 適切・計画通り B 概ね適切・概ね計画通り C 改善の余地がある D 改善する点が多い

【予算】↑ 大幅に増加(50%以上) ↗ やや増加(10~50%未満) → 現状維持(±10%) ↘ 減少(-10%以上)



基本計画別まとめシート

26年度	基本目標3	「みんなで支え合い、安心のあるまち」
	基本計画3-2	複合的な相談に対応できる総合的支援部門の設置

1 基本計画の趣旨

何をどの様にしたいか	複合的な相談に対応できる組織力・職員のスキル向上
------------	--------------------------

2 計画の関連事業

関連事業		前年度の評価	今年度の評価	予算の方向
1	相談者を横断的にとらえ、総合的な相談に対応できる部門設置の検討	A		
2	相談に対応できる、職員体制や研修制度の検討	A		

3 計画の評価

計画全体に対するニーズの変化	(社会環境の変化、制度の改正、市民の意見、緊急性等) ・生活困窮者自立支援制度の町田市の取り組み方が明確になった。 ・介護保険改正により、総合相談を受けたあとの課題解決の流れとして、生活支援コーディネーターなどの地域活動の取り組みが、法制度上システム化されてきている。
今年度の実施状況	・問題解決の糸口につなげるために社協が取り組む方向性について検討、確認した。 ・全職員がCSW像を会得するためのまとめとして、「町田市社協のめざすコミュニティソーシャルワーカー像」小冊子を作成した。加えて、総合的な相談対応を行い、CSW機能がある都内市区社協4か所へ視察実施。 ・関係機関の把握、役割確認を行い、社協との関係性を整理する中で、社協の役割について整理した。 ・相談事業のあり方を検討して、心配ごと相談、ここのびの現状確認を行った。 ・全職員がCSWとして機能できるよう、研修(基礎編①②)を各2回実施した。 ・主査連絡会で模擬的に事例検討会を実施した。
課題等	・CSW研修について、平成27年度からは応用編となるため、職員が十分に習得でき、職務に活かせるようなスケジュールの検討が必要である。

4 次年度以降の方向性

計画の方向性や改善点等	・問題解決の糸口につなげるための社協の具体的な方策について仕組みづくりを行う。 ・CSW研修をふまえた職員の意識調査、検証を行う。 ・関係機関との関係性を深めるために、周知・発信方法を検討する。 ・相談事業の見直しを行い、より利用しやすい事業を目指す。 ・CSW研修は、平成27年度に応用編を実施。演習中心の内容とする。
-------------	--

【実績の評価】A 適切・計画通り B 概ね適切・概ね計画通り C 改善の余地がある D 改善する点が多い

【予算】↑大幅に増加(50%以上) ↗やや増加(10~50%未満) →現状維持(±10%) ↘減少(-10%以上)

## 重点計画まとめシート

重点計画1	小地域福祉活動の展開による地区社協の設立
-------	----------------------

項目の趣旨 (PLAN)	<p>社会情勢や地域社会の変容により、制度だけでは解決できない複雑で多様な福祉ニーズに対応するため、地域住民相互による新たな支え合いの仕組みとして、小地域福祉活動の展開による地区社協を設置します。また、小地域における支え合い活動を推進し、住民の地域力を高めるための取り組みを行います。</p>
-----------------	--

### 計画期間中の成果指標

前期(H24-H26)	中期(H25-H27)	後期(H26-H28)
<ul style="list-style-type: none"> <li>・広範囲を対象とした啓発的取り組みの検討、実施</li> <li>・設立検討を希望する地域を対象にした取り組み</li> <li>・支え合い活動団体についての調査</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・設立検討を希望する地域を対象にした取り組み</li> <li>・ふれあいサロン活動に関心のある方を対象にした取り組み</li> <li>・支え合い活動団体に関する情報提供の取り組み</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・設立希望地域を対象にした設立準備会等の取り組み</li> <li>・新規2か所設立</li> <li>・支え合い活動団体についてのしくみ検討の取り組み</li> </ul>



(DO) これまで(今年度)の取り組み	
H23	<ul style="list-style-type: none"> <li>・地区社協設置に向けた取り組みとして「みんなで進める地域福祉づくり講演会」の実施</li> </ul>
H24	<ul style="list-style-type: none"> <li>・出張講演会「防災講演会と地区社協」(10月/1回)</li> <li>・ふれあいサロン活動紹介(社協だより)、ふれあいサロン開催案内チラシ作成・配布(年4回)</li> </ul>
H25	<ul style="list-style-type: none"> <li>・9月から「南町田福祉ネットワーク会議」設立準備委員会に参加。</li> <li>・地区社協について、HPに頁を設け新たなPRを行った。</li> </ul>
H26	<ul style="list-style-type: none"> <li>・町田市が進める地区協議会の説明会や準備会等に地区の担当職員が出席した。</li> </ul>



(CHECK) 達成状況と成果	
	<ul style="list-style-type: none"> <li>・小地域支え合い活動の啓発の一環として、町内会自治会を対象とした出張講演会は、19件実施。昨年度より件数は増えた。</li> <li>・「南町田福祉ネットワーク」として、5月に地区社協設立総会を実施した。</li> <li>・ふれあいサロンの活動案内チラシを民協定例会で配布し、市民への情報提供について協力依頼をした。</li> <li>・市内の支え合い活動団体の活動内容等の把握については、主に歳末の申請団体に関して情報収集した。</li> </ul> <p>小山・鶴川・町田第二地区協議会が設立し、社協はメンバーとして参加。</p>



(ACTION) これからの取り組み	
	<ul style="list-style-type: none"> <li>・出張講演会は、参加者アンケートに基づき、市民ニーズに沿った内容を検討して取り組む。</li> <li>・ふれあいサロンの立ち上げ説明会の開催及びPR先の拡大に取り組む。また、地域で既に活動しているサロンの情報収集に努める。</li> <li>・市民協働推進課・福祉総務課と今後も連携しながら、市と整合性のある地区社協支援を行う。</li> <li>・各地域の地区協議会の準備会や説明会等に参加。協議会設立後は、メンバーとして会議等に出席し、関係づくりに努める。</li> </ul>



課題と今後の対策	
	<ul style="list-style-type: none"> <li>・出張講演会は、昨年度より件数は増えたが、防災講演に集中した。</li> <li>・ふれあいサロンはスタッフの高齢化や中心スタッフの環境の変化、会場の問題などにより、指定を解除するサロンが増える一方で、今年度は新規サロンが少ない。</li> <li>・町田市基本計画「まちだ未来づくりプラン」における、市内に設置される地区協議会についての地区社協との整合性と連携のあり方。</li> </ul>



重点計画まとめシート

重点計画2	福祉人材の育成
-------	---------

<p>項目の趣旨 (PLAN)</p>	<p>身近な地域の課題や潜在化したニーズの解決に向け、地域福祉活動を専門に担える人材を育成・支援します。また福祉施設職員の研修会の開催など人材確保への支援を行います。</p>
-------------------------	---

計画期間中の成果指標

前期(H24-H26)	中期(H25-H27)	後期(H26-H28)
<ul style="list-style-type: none"> <li>・地域の社会資源、人材および地域力の調査・把握</li> <li>・地域福祉コーディネーター養成講座の検討および実施</li> <li>・市内福祉施設等職員研修会の開催および階層別研修会の検討</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・地域福祉コーディネーター養成講座の実施および修了生の活動先の開拓</li> <li>・市内福祉施設等職員向け研修会(階層別含む)の開催</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・地域福祉コーディネーター養成講座修了生の活動フォロー</li> <li>・市内福祉施設等職員向け研修会(階層別含む)の開催</li> <li>・障がい、児童施設職員を対象とした研修の検討</li> </ul>



**(DO) これまで(今年度)の取り組み**

H24

- ・介護人材開発センターについては、24年度から社団法人化によりセンターは独立。
- ・それまでの基盤づくりにおいて、社協として一定の役割を果たした。
- ・「福祉のしごと相談会」(地域密着面接会)の開催(2回)

H25

- ・福祉施設職員を対象として研修会を6回実施。
- ・地域福祉コーディネーター養成講座を実施。
- ・「福祉のしごと相談会」(地域密着面接会)の開催(8月/1回)

H26

- ・「福祉のしごと相談会」(地域密着面接会)の開催(8月/1回)



**(CHECK) 達成状況と成果**

- ・「福祉のしごと相談会」(地域密着面接会)は、町田市・都社協・ハローワーク町田と共催。介護人材開発センター・法人連の協力を得て、昨年に引き続き市文化交流センターで実施。参加者181名(昨年比+29名)。
- ・施設職員を対象として実践的な研修会を4回(うち2回は6時間の研修)実施した。日中に実施した。
- ・新規参加者を増やすため、新人職員対象の研修会を1回開催。昨年に比べ参加者が減少。
- ・地域福祉コーディネーター養成講座について、市が進める地区協議会の動向や地区社協との関係において、現状では適当な時期ではないと判断したため実施せず。



**(ACTION) これからの取り組み**

- ・「福祉のしごと相談会」(地域密着面接会)は協力団体と連携を強化して実施。
- ・施設職員研修は引き続き高齢・障がい・児童のどの分野にも共通するテーマで実施する。
- ・制度の改正や市の地区協議会、地区社協等の動きを見ながら、地域福祉コーディネーターを含む地域福祉活動における必要な人材育成について、検討していく。



**課題と今後の対策**

- ・「福祉のしごと相談会」(地域密着面接会)の参加者は昨年に比べ増加。
- ・施設職員研修は他の事業と関連性を持たせ、組織運営等の分野にも共通するテーマを目的とした研修会を実施。
- ・27年度介護保険制度の改正における生活支援コーディネーターの配置や、既存のボランティアコーディネーター、またコミュニティソーシャルワーカーなど、類似した機能が未整理のままであり、地域福祉コーディネーターの位置づけも不明確。

重点計画まとめシート

重点計画3	成年後見制度等の活用による権利擁護支援の充実
-------	------------------------

項目の趣旨 (PLAN)	関係者、関係機関とのネットワークを強化し、地域住民が活躍できる仕組みが出来ている。
-----------------	---

計画期間中の成果指標

前期(H24-H25)	中期(H26)	後期(H27-H28)
関係機関とのネットワーク構築のための広範囲な啓発、市民後見推進事業、監督業務の充実	関係機関との連携の強化、市民後見推進事業開始、後見業務の充実	関係機関との連携のもと相談窓口の強化、市民後見推進事業、監督業務の充実



(DO) (これまで)今年度の取り組み

- ・成年後見制度等の啓発
- ・市民後見人育成事業実施に向け関係機関等との定期的な打ち合わせの実施。
- ・市民後見人育成委員会(仮称)を設置し、質の高い市民後見人育成に取り組む。
- ・市民後見人候補者として登録された者に対して、スムーズな受任調整のあり方について検討をすすめる。
- ・各事業実施に向けて、早めの取り組みと関係機関との連携強化。
- ・法人後見監督として、後見人に対し適切な支援を行う。



(CHECK) 達成状況と成果

- ・講演会や説明会を通じて成年後見制度の啓発に取り組んだ。
- ・市民後見人育成事業実施に向けた準備として、委員会設置に関わる関係機関等との打ち合わせを実施し、市民後見人育成の趣旨についての理解促進を図った。
- ・市民後見人育成委員会を設置し、委員会を8回開催した。
- ・市民後見人育成委員会において、スムーズな受任調整のあり方について検討に取り組んだ。
- ・法人後見監督として、後見人に対する適切な支援に取り組んだ。



(ACTION) これからの取り組み

- ・市民後見人育成事業の実施
- ・市民後見人に対する相談体制の検討
- ・市民後見人に対する実費保証、報酬、保険のあり方について整理
- ・法人後見監督として、後見人に対し適切な支援を行う。



課題と今後の対策

- ・育成した市民後見人が受任するに適した事案が、定期的に提案されてくるような仕組み作りや関係機関への周知を進める。